婦人と新社會

山田わか主筆

二月號

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正十四年一月廿三日印刷納本

社會指導者の原則

先覺者達の家庭觀

△保守主義的意見

△過激主義的意見

△穩健にして進歩的意見

宗教的經驗に附て

△おみくじの社會的作用

△宗教的本能の起原

△生きた修養の缺乏

—編輯の後—

毎月一回一日發行　第五十九號　大正十四年二月一日發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會指導者の原則

一、指導者は民衆を追ひ廻すか或ひは引きづり廻す。

二、指導者の力に依頼することが指導者を獨裁者にする。

三、希望と褒美を見せびらかすことによつて獨裁的指導者は多くの部下を造る。

四、凡て大社會運動は力强い人格を中心として動いて行く。

五、彼の主張に關する科學的材料の寄集の多寡によつて指導者の能力は計られる。

六、指導者は反射的な活動か又は實行的な活動に重きを置く。

七、要するに指導者は集團の操縦者、集團の代表者、集團の創造者である。

八、差し當りの成功によつて指導者の能力は最善に試驗される。

（或る日の讀書より）

これは多くの社會指導者の實蹟を歸納して造つた原則ですがこれによつて見ると所謂社會指導者の眞個の社會改良家に於けるは足場の本建築に於けるが如き觀が致します。

先覺者達の家庭觀

婦人問題が起つて 以來、そして、今日に於ても、猶、一般の婦人論者は、男子の生活を人としての生活の標準として 女子の男性化を女子の進步だとしてゐます。そして、女子が男性化する結果は自然、家庭が問題になります。

ですから、今日の婦人問題に於ては家庭が大問題となつて居ります。

そして、此の家庭に對するいろ〱な意見が發表されてありますが、 それ等の意見の間には甚しい差があつて、人は、其のうちのどれを取つていゝか、判斷に迷ふ位ひです。勿論、意見の不一致は問題が非常に複雜であるからと 云ふことばかりでなく、それぞれの主張者の主義の違ひからも來て居ります。

其處で、非常に差のあるいろ〱の意見のうちどれが正しいものであるかと云ふ 判斷を下すに付ては、私共は 何にかの標準に依らなければなりませんが、 恐らく、誰にでも、承諾される唯一の標準は萬人共通の幸福と云ふことだろうと思ひます。 今迄の女權主義者が 採つてゐた態度であるよう

に、婦人自身の都合、又は、幸福を計るに急であつて、婦人のためにはベターハーフである夫を困らせ、自分達の生命の延長である子供を厄介視するような、つまり、周圍に不幸の種を蒔くやうな意見は決して本當のものではないと思はなければなりません。

國家、乃至、社會が個人の幸福を確立するために存在するものだとするならば、其の制度又は法律は、國民全體の生活を最善に充實するように進歩的に改革しなければならないのであつて、一ッの階級の利益を計るために他の階級を苦しめたり、男性の利益のために女性を苦しめたと同じように、女性の利益のために男性を苦しめたりするようなものであつてはならない。

で、この萬人共通の幸福と云ふ處を目標として、今迄に發表されてある家庭並びに兩性關係に關する意見のいくつかを考へて見ますと、それは大體三ッに大別して見ることが出來ます。そして、それは保守主義的意見、過激主義的意見、穏健にして進歩的意見であります。

保守主義的意見

第一の保守主義的の意見は、要するに現狀維持と云ふことであります。そして、此の現狀維持の

主張には宗教と生物學が其の根據となつてゐます。ツイでに申しますが、生物學的の材科は保守主義の基礎にもなつてゐると同時に、過激主義の基礎ともなつてゐます。

そして、此の保守主義的意見はウインナー大學の教授フェーレステル博士が代表してゐると云つてもよいと思ひます。

博士は「結婚と性問題」と云ふ著書に於て、今日の人間の道理及び良心はまだ〳〵大いに修養する必要もあるし、純化する必要がある。其の後に解放すべしと云ふのであります。修養と純化とを等閑にして置いての解放は非常に有害であると云ふのです。神を信ずること、基督を通しての解放傳統を重んずること、此の三ツが揃ふことによつて人間は始めて最高知識に達することが出來、單なる主觀的な空理空論から救はれると云ふのです。

博士は性の感情を卑しめはしませんけれども、併し、肉體的要求が精神的要求を蹂躙するのでなく神精的要求に肉體的要求を從はさしめようとするのであります。

其の當然の結果として、結婚以外の性的關係を全然否定して、今日の一夫一婦の儀式は其の眞面目さと其の嚴粛さによつて一般人を大いに教育すると云つて居ります。

過激主義的意見

第二の過激主義的意見は、社會主義者 共產主義者並びに或る種類の女權論者によつて代表されて居ります。社會主義者共產主義者は 今日の家族制度なるものは私有財產制度から切り離すことが出來ない禍ひを説明すると申します。そして、獨逸の社會主義者 ベーベルは「ブルジョアの結婚は財產關係の結果である。」と云つてゐますし、又、カペンターは「今の一夫 一婦の結婚制度は、丁度、結婚した人のめぐりに堅固な垣根を結び廻したようなものだ。でさう云ふ 結婚から出來上がつた家庭は外面から見れば 地上にわだかまつた大きな石のように堅固に見ゆるが、併し其の石をひツくり返した時にはうぢ虫がウヂヤ〳〵出て來るように內部は腐敗してゐる。」

と云つて居ますし、又、ギルマン夫人は「長い間男子によりかゝつて 生きて來た婦人は、性を男子を引き付ける手段としてゐるのみならず、生活の資料を得る 手段としてゐる結果、其の女性たることを過度に發達させてしまつた」と云つて居ります。

そして、これ等の人々は自由戀愛及び自由結婚を主張し、 乃至、家庭無用論を稱へて居るのであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ります。
現在の多くの家庭の狀態、並びに、女性の狀態に對する彼等の鋭い見方には私共は敬服します。けれども、それが汚たないから、全部捨てゝしまへと云ふのは決して妥當ではないと思ひます。
今の制度の下には下らない人間であり、家庭を造れば汚たない家庭を造る人々が、彼等の主張する社會組織になれば、忽ち、立派な人間となり、社會の利益と云ふ觀念を持つようになつて、必要な社會道德には服從するようになると考へるのは實際彼等の空想です。事實と遠ざかつてゐることが餘まりに甚しいものです。
自由戀愛の實行、又は、無家庭の狀態が、いくつも〳〵の悲慘な結果を生み出した時に、彼等は始めて其の主張の無謀であつたこと、そして、人間の道德上の訓練、又は、社會敎育と云ふものは彼等の考へて居るよりは無限に遙かに困難であると云ふことを理解するでせうが、併し、さうなる迄、私共がそれを傍觀してゐると云ふことは耐へられないことです。
自由戀愛說は決して健全な學說ではありません。なぜなら、それは、人間性の外の力、又は、外の要求を犧牲に供して、戀愛の衝動のみを自由に働かせようとするものですから、人間の內部生活

の統一を破壞してしまいます。戀愛以外に多くの必要、多くの責任が人生にはあると云ふことを無視してしまうからです。

又、自由戀愛を實行すれば凡ての制限から解放されると考へるのも虛です。人間のうちに潜んでゐる獸慾をほしいまゝにすることによつて、却つて、いろんな苦しいこと、不都合なことが續出して却つてより多くの制限を受けねばならぬようになります。

もう一ツ、此處で申し上げて置きたいことは性慾は本能だと信じられて居ることに付てであります。成程、本能には相違ありませんが、併し、其の本能に習慣が非常に加はつてゐる。つまり、生れながらの本能の部分よりも、獲得した本能則ち第二の本能の非常なパセンテージを含んでゐると云ふことが最近の心理學によつて證明されて居ります。

自由戀愛の主張者、並びに、男性模倣の女權主義者は、子供のための共同保育所を要求します。けれども、其處に大きな矛盾があることに彼等は氣付きません。なぜなら、彼等は自分等の自由な個性の發達を要求して、子供等が劃一的に育てられる結果、子供等の個性が傷けられてしまうことを考へません。又、國家機關によつて育てられる子供は父母の愛を缺く結果、同情、責任、克己な

ど云ふ最も大切な社會的修養を失つてしまいます。

穩健にして進步的意見

第三の穩健且つ進步的意見と云ふのは、現代の家庭生活の複雜な問題を、好意と道理と社會的經驗によつて解決しようとするものです。家庭生活を脅威する社會狀態を徹底的に公平に研究して、そして、立法と敎育によつて救濟出來ると信じて居る意見です。法律の力によつて、健全な幸福な永久的な家庭を造るに都合のよい社會狀態を實現すると同時に敎育の力によつて理想的な結婚をし、理想的な家庭を造るように青年男女を訓練しようとするのです。

敎育者並びに親は、將來夫となり妻となり、父となり母となる子供に、より完全な知識、より眞實な理想主義、より確實な自治心を持たせることによつて、結婚生活を不幸にする病毒を根絕し、家庭が崩壞されて行く傾向を防止しようとするのです。

いづれにしろ、過去に於て、家庭なるものが、文明に如何なる貢獻をしたかを 私共が思ひ起す時に、同時に、將來に貢獻する多分の可能性を家庭が 持つてゐることを考へる時に私共は家庭保存のためには 最善な努力を惜しんではならないと思ひます。

人間のために 最も大切な個性の養成所が一夫一婦制の家庭以外に曾てあつたでせうか？

一夫一婦の家庭以外に、どう云ふかたちの性的關係が性慾を 精神 化する力を持つて居たでせうか？

で今日の家庭の不安な 狀態に於ては、思慮ある青年男女は家庭に關する問題を深重に研究して、そして、今日迄に家庭に對して拂はれてゐた尊敬心を 益々深くし、同時に、不備な點はドン／＼改革して行くべきだと思ひます。

そして、その第一着の一大運動として、私は家庭に立脚した婦人參政權を要求致します。

女兒を得ていぢらしきものと思ふ迄
我等女性を虐げ來けむ

草間判二

宗教的經驗に付て

おみくじの社會的作用

淺草の淺草寺から發行されてゐる「聖潮」と云ふ雜誌の編輯者が「世間の人の知力はだん／＼進んで行くのであるから、觀音樣のおみくじを引く人はだん／＼少なくなるであらうと考へて居るのに、却つておみくじを引く人が此の頃は大變多くなつて來ました。ですから、おみくじに關する感想乃至批判と云つたようなものを書いて下さい」と。云つて來ました。

私は、一寸途方にくれたような氣持ちが致しました。なぜなら、おみくじなどと云ふものは現代の普通のレベルに立つ人達には全く用のないもの、それは時代とは全くかけはなれた、愚男愚女の迷信的行爲であるからと一時は考へました。

けれども、觀音樣に納まるおみくじの金が一年一萬圓あまりあると聞きます時に、さつと平均して一日三十圓、一本に對していくら拂ふのかは聞きもらしましたが、もし五錢づゝなら、一日六百

人づゝが觀音樣のおみくじによつて運命を定めてゐる勘定になりますので、そして、それが單なる議論などではなく、事實でありますので、それは迷信である、愚男愚女の行爲で あると一言の下にかたづけてしまふことは出來ないような心持ちになりました。

そして、猶、詳細に考へて、私は、おみくじを引く人を愚男愚女と云ふのは 淺薄な考へであるかも知れない。私共人間は何にもかもを知つてゐるようなつもりでゐても、實は 知つてゐることと知らないこととを比較して見ると、知らないこと、つまり、私共の知識では 說明の付かないこと、最後の判斷に苦しむこと、が餘りに澤山あつて、宇宙間のこと柄に付ても、自分の身の上に 付ても一分間後のことを私共は豫測することが出來ない。

殊に、地震は地震學の最高權威でも、近い將來に大きな 地震があるともないとも適確に斷定することは出來ないし、又、私達が一寸外出するにも、今日は雨が降るだろうか 降らないだろうか？傘を持たうか？　持つまいか、新聞の天氣豫報を見ても、今迄 大抵當らない經驗が共れを信じませんし、結局、地震があるか無いか、雨が降るか降らないかを定めるに 付ては何にも確實な根據を私共は持ちませんので、いゝかげんな處で「先づこうだろう」と定めてしまいます。つまり、自分の心

のおみくじを引ひてしまいます。
　右に行かうか？　左に行かうか？　甲を採ろうか？　乙を採ろうか？　と云ふような場合は絶へず起ることで、そして、其の度毎に其れを決定するものは確實な根據に依るのではなく、要するに無形なおみくじによるのです。つまり、あらゆる人間が智者も愚者も毎日々々おみくじを引きつゝ生活してゐるのであるから觀音樣のおみくじを引く人達を愚男愚女だと云つてしようことは、餘まりに傲慢であるだろうと云ふ處に私は思ひ至りました。

　私共の日常生活に付てばかりでなく、科學にしろ哲學にしろ、宗教にしろ、或る程度迄進めば必ず分岐點に到着します。右か？　左が？　今迄の人間が獲得した知識では決定することが出來ない場合に立ち致ります。進む處迄進んでしまへば、どんなに奥深い哲學者も、どんなに偉い科學者も、どんなに信仰の厚い宗教家も、其處から先きはおみくじによるより外仕方がないのです。

　ですから、比較的知力の低い人々が一生の運命を定めようとする場合ひ、又は、重なる不幸に絶望して自分の心のうちのおみくじを引いて見る餘裕を持たない場合ひつきつめた氣持にならない安全辨としておみくじは矢張り社會的の用をしてゐると私は考へました。

宗教的本能の起原

自分の環境を理解し、自分の運命を左右しようとした努力が開闢以來の歷史でありました。けれども、人間の知力がどうしても屆かない範圍がありました。

起つてしまつた出來事を後ではどんなに巧みに說明出來ても、其の出來事が起ると云ふことを前もつて知ることは出來なかつたのです。云ひかへれば、現實は如何に委しく理解出來ても未來を知る力は人間には無かつたのです。

そして、此の隙間を滿たそうとした處に宗教的本能と云ふものが起つたのだと私は理解してゐます。最も進步した研究によれば、宗教的經驗は全人類の共通性であつて、しかも、宗教的本能は同一原因から發達してゐます。則ち、自分の力の不足を感じ、自分の不完全さを知り、或ひは感じ、そして、自分よりもより有力なより完全なものに自分の保護を依賴しようとする。猶、云ひかへれば、不完全より完全に達しようとする向上本能であります。

其處で、文明人の宗教的經驗から、所謂迷信的經驗を見て、野蠻的である、迷信的であると侮蔑

するのは當を得てゐないと思ふのです。自分自身の心理狀態がまだ幼稚である時分乃至は自分の父母及び祖父母が皆其の所謂迷信的野蠻的の宗教的經驗を經て來てゐるのですから。

故に、彼等の行爲を侮蔑する代りに、其れを以て、彼等の向上を計る手段とすべきもの、つまり自分等が幾分高尚な宗教的經驗を持つて居たからとて、彼等の幼稚な宗教的經驗を冷笑すると云ふような隙間は彼等と自分等の間には存在してゐない筈なのです。

生きた修養の缺乏

日常生活に於て、チャンスによつて左右されて居る間は、人は到底進歩しないのですが、そしておみくじによつて進み行く方向を定めるのは一見チャンスによるように思へるのですが、併し、これとても、全智全能と彼等が信じる神佛の敎へを待つのですから矢張りチャンスに依るのではないでせう。

唯、彼等が神佛の力と信じてゐるものは彼等自身にあると云ふことを彼等は知つてゐません。つまり生きた修養を彼等は缺いてゐるわけです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯の後

麓から頂き迄雪に覆はれた峨々たる連山、それを屏風とした盆地の中央を流れる笛吹川、山梨水明は日本の至る處にあると思ひます。鼻がつかへそうな且つほこりに覆はれた都會にのみ生活して居る者の目には其の淸淨且つ雄大な風景はたまらなく嬉しく、のみならず我が國が自然に惠まれてゐると云ふ思ひで心强さを感じます。

處で、その雄大且つ秀麗な風景を背景とした田園に立つてゐる農夫の妻らしい中年の女、彼女はポカンと口を開いて道行く人を眺めて居ます。どんよりしてゐる彼女の目は彼女達に與へられた天惠を意識してゐるとは思へない。まるで前世紀に生くべき筈の人間が間違つて現代に生を受けたような其の表情を見て、そしてそれが日本國民の一人であり、私共同性の一人であると考へる時に、私の心はイラ〳〵して來ました。

そして、こう云ふ知能の後れた人物を造つて置いた爲政者の罪を責めたい氣持ちにさへなりました。

それに反して同じ土地に住んで居る人達でも處女會に集まつた處女達の表情には或る輝きを見逃し得ません。觸るればひゞく琴線が彼女達の胸に藏されてあることを感じました。時代精神を受け容れようと用意してゐる彼女達の將來に大きな望みを囑すると同時に、これ等の處女達と前述の農夫の妻との差は、要するに、爲政者乃至指導者の手が屆いたのと屆かなかつたのとの差であることを思ひ、私は爲政者乃至指導者達の御奮勵を祈らずには居られません。（山梨縣八幡村處女會の講演から歸京して、一月二十五日）

本誌臨時定價表			
一冊	六冊	十二冊	本誌代及郵税は前金の事 送金の際は振替貯金東京五三六八八番に振込みのこと 郵券代用は五厘切手にて一割增 廣告は御照會次第御相談いたします
金十錢	前金五十五錢	前金壹圓	
送料五厘	（送料共）	送料共）	

大正十四年一月廿三日印刷納本
大正十四年二月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉
東京市牛込區山吹町一八九
印刷人　大杉直次郎
東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八